

2021 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2022年 3月 23日
研究・研修課題名	院内がん登録データ分析研修
研究・研修組織名(所属)	院内がん登録委員会(先端がん治療センター)
研究・研修責任者名(所属)	田村研治(先端がん治療センター)
研究・研修実施者名(所属)	中林愛恵(医療サービス課)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果(報告書作成)
該当者名(所属)	中林愛恵(医療サービス課)
学会名(会期・場所)、認定名等	
演題名・認証交付元等	
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

① 目的

本研修は蓄積したデータの集計方法や分析等について学び、施設等でデータを有効活用することを目的とします。データ分析についての講義を踏まえ、実際の院内がん登録全国集計のデータを用いて、データ分析等についての実習を行います。

基礎コースでは、データ分析を初めて行う実務者を主な対象とし、主に全国集計結果を用いて集計方法について理解し、自施設のがん診療の特徴を把握することを目的とします。応用コースでは、これまで院内がん登録データ集計・分析研修を受講された方や施設において実際にデータ分析を行ったことがある実務者を主な対象として自施設のがん診療を踏まえた上で、施設のがん診療についてより掘り下げた分析を行います。2021年度は新型コロナウイルス感染流行に伴う自施設のがん診療への影響をテーマとして分析に取り組みます。

これまで、申請者は院内がん登録データ集計・分析研修を受講したことがあるため、今回は、応用コースを申し込みました。

また、「拠点病院整備指針」の都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件に、「当該都道府県内の院内がん登録のデータの分析、評価等を行うこと」と明記されておりますので、都道府県がん診療連携拠点病院である本院は、本研修で分析方法を学び、県内の院内がん登録のデータの分析、評価等を充実させていく必要があります。

② 方法

下記の研修会を受講します。

【主催】

国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター

【受講対象】

院内がん登録 2019 年全国集計にデータ提出をした施設に勤務している実務者で、令和 2 (2020) 年度までに、がん登録実務初級認定者となっている者。応用コースは過去に院内がん登録データ分析研修を受講されたことのある方や実際に院内がん登録を用いて、自施設で報告書を作成したことのある者が対象になります。

各回受講生定員 20 名程度

【内容】

講義① 精度管理と集計データの整理 (e-learning)

《演習》 がん診療の特徴分析

《演習》 データ整理 (グラフ含) と資料作成

《演習》 発表

講義② 生存率の解釈 (生存状況把握割合の演習)

【会場】

オンライン開催

【開催日時】

応用第4回 2021年11月29日(水)

【経費】

受講料 19,800円(税込)

③ 成果

がん登録データを扱う上で重要な生存率の解釈について学びました。生存状況把握割合が低い場合は、生存率が誤って高く算出されてしまい、時間が経つにつれて差が大きくなるそうです。例えば、生存状況不明が20%のデータと、不明が0%のデータを比較すると、1年後の生存率が92%対87%、3年後の生存率が81%対70%、5年後の生存率が76%対61%という差になるということです(木下ら 癌の臨床 46(10) 1197-203)。予後調査が重要な理由が分かりました。

また、今年度は新型コロナ感染流行に伴う自施設のがん診療への影響を取り上げられるとのことで、分析した結果を報告しました。

対象：がん検診が行われている臓器(胃、大腸、肺、乳、子宮頸部)

県内12病院の島根県院内がん登録解析データ

2016年から2020年の5年分の年次推移

分析指標：登録件数(月毎、年間)・・・感染拡大時期と登録数の増減の時期

発見経緯・・・がん検診を契機としたがんの発見の増減

総合ステージ・・・早期発見症例、進行症例の増減

島根県では他県に比べてコロナ感染拡大が落ち着いており、がん診療への影響はわずかでしたが、2020年よりも2021年のほうがコロナ感染者数などは多いため、継続してがん診療への影響を調査する必要があります。

また、本研修の分析内容をもとにして、今年度の島根県院内がん登録報告書でコロナによる影響調査の特集ページを作成しました。都道府県がん診療連携拠点病院の役割である県内の院内がん登録データの分析に研修の成果を活かすことができました。